

9

河川名

むろみがわ

室見川水系

# 室見川

特徴・アピールポイントなど

学識者のアドバイスを受けて、環境に配慮した浚渫を実施しました。

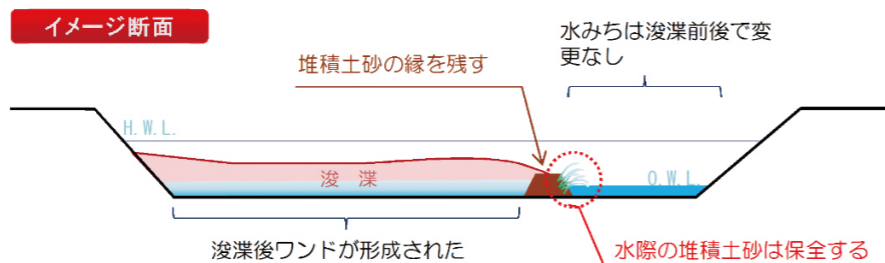


水際は魚類をはじめとする水生生物にとって優良な成育環境です。しかし、浚渫によって堆積土砂をすべて搬出してしまうと、水際に生息していた生物の生育環境を奪うことになり、水生生物の減少につながります。

そこで、学識者のアドバイスを受けて、水際を残した浚渫を行い、生物の成育環境を保全しつつ、河道断面を確保しました。また、水際部を残したことにより、浚渫箇所にもワンドが形成され、新たな水辺環境が生まれました。



浚渫直後の様子 (平成27年7月撮影)



浚渫直後の状況(平成27年7月2日撮影)



室見川は、福岡県と佐賀県の県境となる脊振山地を源流とし、福岡市の市街地を貫流し、博多湾に注ぐ二級河川です。下流の市街地には、延長4.7kmにおよぶ室見川河畔公園が作られ、市民の憩いの場となっています。この公園は「福岡アメニティ百選」のひとつに選定されています。

浜井手堰下流では、平成25年度から平成26年度にかけて、流下能力向上を目的に堆積土砂を浚渫しました。小田部橋下流左岸の砂州の浚渫については、生物の生育環境保全のためのワンド形成や水際保全を目的に、砂州の水際を残した浚渫を行っています。

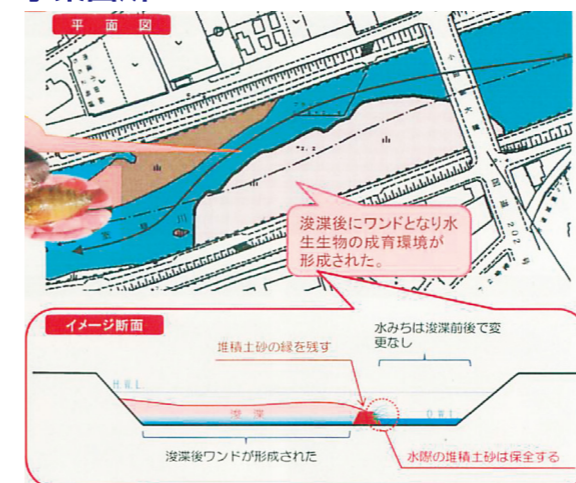
右の写真は上から「浚渫前」、「浚渫直後」、「2年後」の様子です。

水際の一系列を残すことで、浚渫前にはなかった浅い湿地(ワンド)が形成されています。

浚渫から2年後に実施した環境調査では、スジシマドジョウをはじめ多くの魚類、稚魚が見られました。

環境調査の結果、水生生物の成育環境の場が形成されていることが確認できましたが、浚渫後の洪水により、ワンド内に土砂の堆積が進んでいます。今後、成育環境を保全しながら実施できる堆積抑制策を検討していきます。

事業箇所



浚渫前



浚渫直後



2年後